

第3回 国有林モニターアンケート

結果概要

国有林モニター制度は、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般から国有林モニターを募り、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見等をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

今回、第3回国有林モニターアンケートを実施し、国有林モニター30名中24名の方からご回答をいただきましたので、その結果について報告します。

平成24年3月

災害に強い森林づくりについて

日本の国土は、険しい山々が続く複雑な地形で、川幅の狭い急流も多く、山崩れや土石流、地すべりなどの山地災害の危険性を常に抱えており、また、年間降水量も世界平均の約2倍（約1,800mm）と多いことから、毎年約2,000箇所もの山地災害が発生し、特に梅雨期や台風の時期等には、局地的な集中豪雨により大きな被害をもたらされています。

中部森林管理局が管理している国有林もその多くが脊梁山脈や重要な水源の源流域に位置していることから、国土保全対策として、管内の国有林の9.4%を保安林に指定し、森林が持つ水源かん養、土砂の流出や崩壊の防止等多様な機能の維持向上のため、間伐や複層林への誘導等の森林整備を積極的に進めるとともに、集中豪雨や地震等により発生した崩壊地等を治山施設の整備により早期に復旧し、下流への被害を未然に防止するなどの治山事業に取り組んでいます。

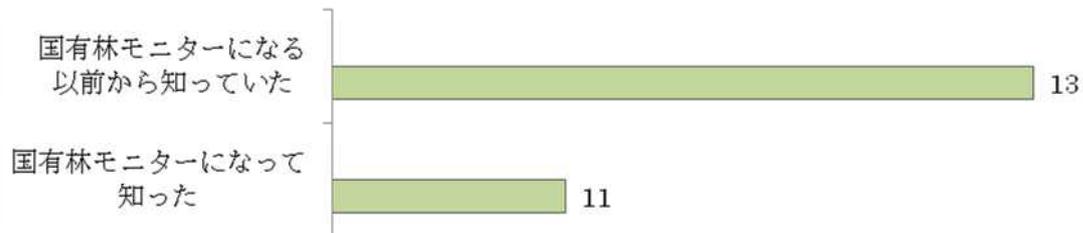
さらに、東海・東南海地震等により災害の危険性が高く地域住民の不安が高まっている地域など、緊急的に対応する必要がある崩壊地等の集中的な復旧整備に取り組むこととしています。

問1 中部森林管理局が国有林内等において、山地災害の復旧等に取り組んでいることを知っていましたか。該当する番号に○印をつけてください。（以下同じ）

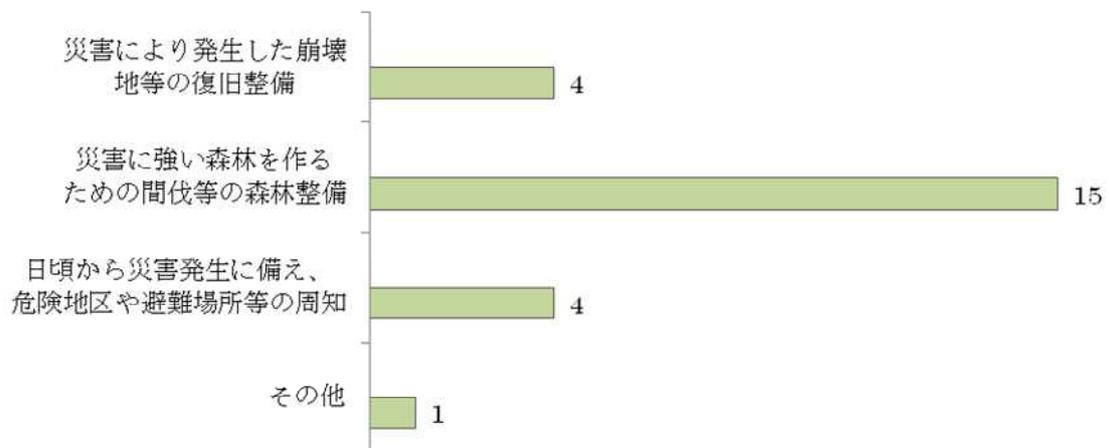
（以下、単位は人数）



問2 これら国有林の取り組みを「治山事業」と言いますが知っていましたか。

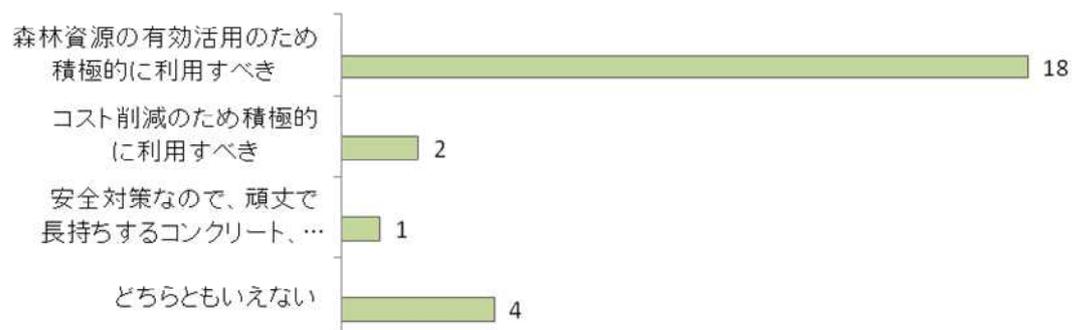


問3 生活の安全・安心向上のため森林を管理していく上で、最も優先的に取り組む必要があると思われる事項1つをお選びください。



その他の意見として、「人材の育成」がありました。

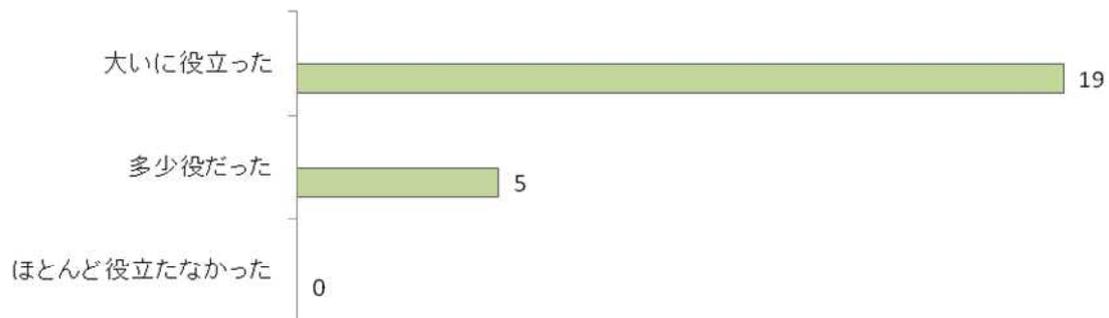
問4 治山事業等では、木製の谷止工や、丸太積土留工等を積極的に取り入れ、間伐材の利用促進、コスト削減等に取り組んでいますが、治山施設等に木材を利用することについてどのようにお考えですか。



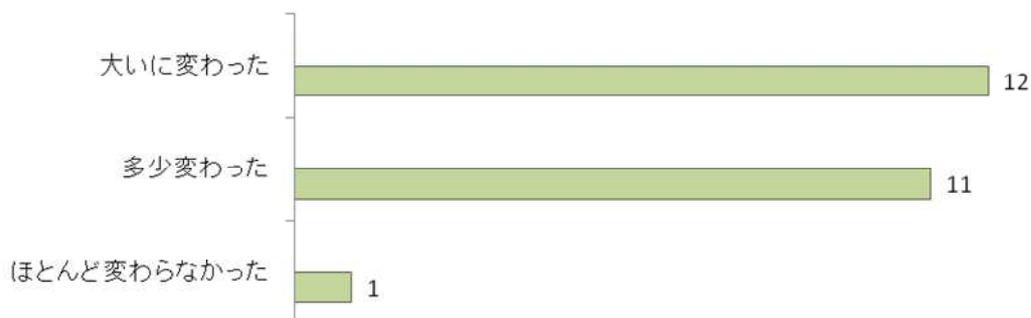
国有林モニターになられて

「国有林モニター制度」は国有林を開かれた「国民の森林」とするために、国有林野事業に関する情報の提供を行うとともに、双方向の理解を深める一環としてアンケートの実施やモニター会議、現地見学会等にご参加いただきましたが、今回モニターになられて国有林への理解の深まり等についてお尋ねします。

問5 これまでの国有林モニター活動を通じて、森林・林業・国有林などについて理解を深めるのに役立ちましたか。



問6 国有林モニターになって森林に対する意識（関心）が変わりましたか。



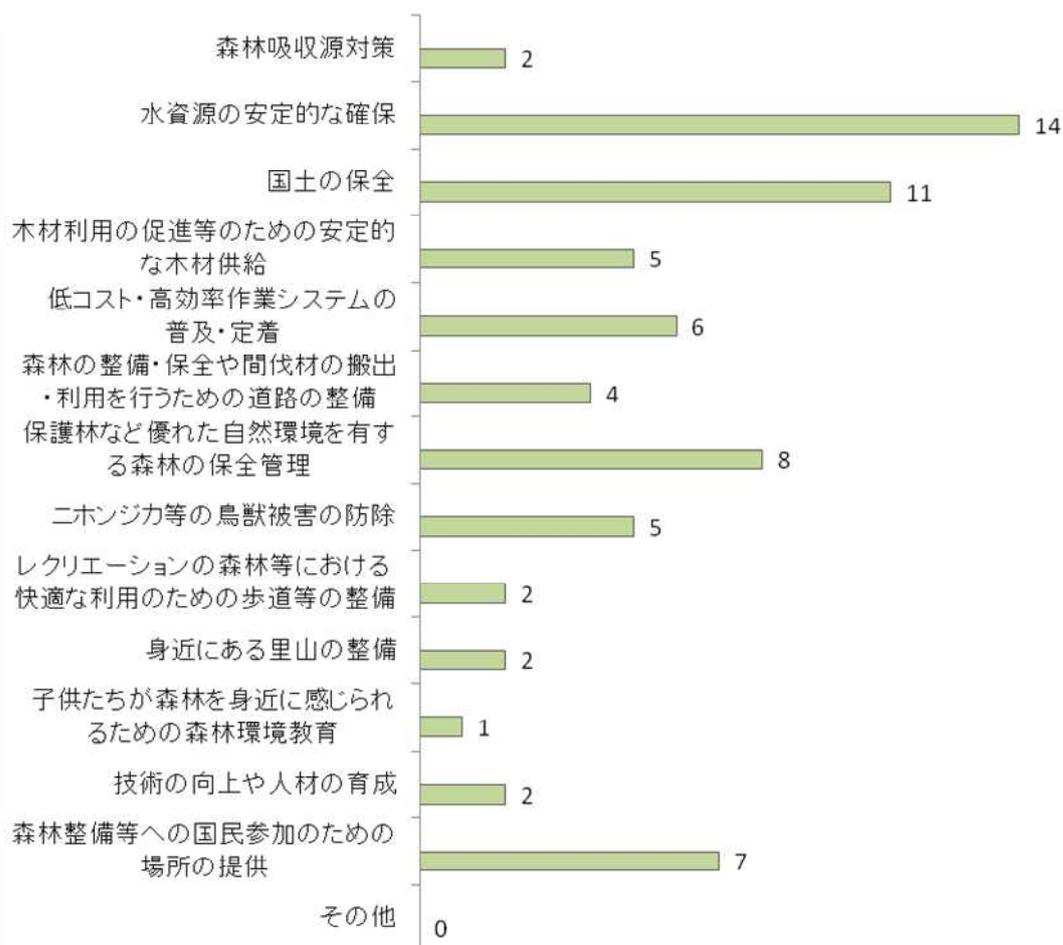
問7 問6で①②に回答された方はどのように変わられましたかお聞かせください。

- ・ 森林や間伐材に関心を持つようになった。
- ・ 森林の重要性の認識を更に強めた。

- ・ 林野庁（林政）について理解が深まった。
- ・ 国有林を整備し守っていくことで国民の生活を豊かで潤いある安全なものにしていくのだと実感した。
- ・ 間伐した木材を運んでも運ばなくても補助金の額が変わらなかったことに問題があることが理解できた。

問8 国有林野事業は、国の特別会計により運営されてきましたが、公益重視の管理経営を一層推進するとともに森林・林業政策に貢献するよう一般会計化されることが検討されています。今後国有林はどのような取り組みを充実する必要があるとお考えですか、最も充実すべき取組を3つ選んでください。

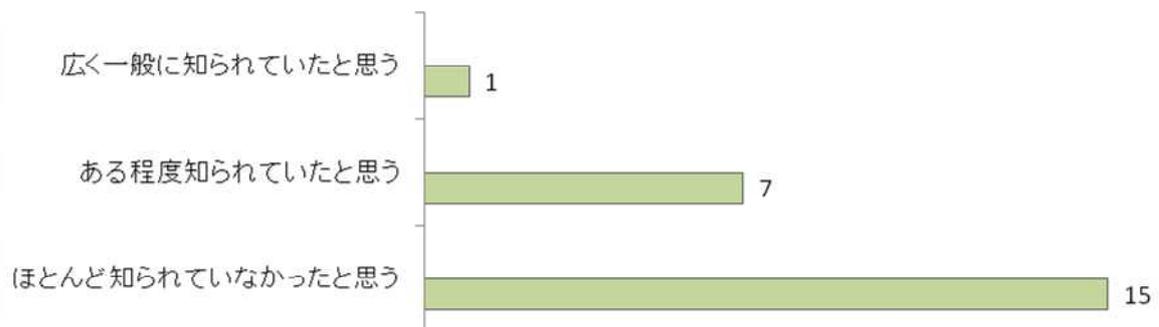
(複数回答)



国際森林年について

昨年は世界中の森林の持続可能な経営保全の重要性に対する認識を高めることを目的とした「国際森林年」でした。国内では「森を歩く」をテーマに、森林への理解の入り口として国民が容易に具体的な行動ができるよう提案することとし、中部森林管理局においても各種のイベント等を実施しましたが、森林との関わりについて尋ねします。

問9 国際森林年の取り組みは、国民の皆様には知られていたと思いますか、理由等があれば併せて記入願います。



ある程度知られていたと思う理由として、

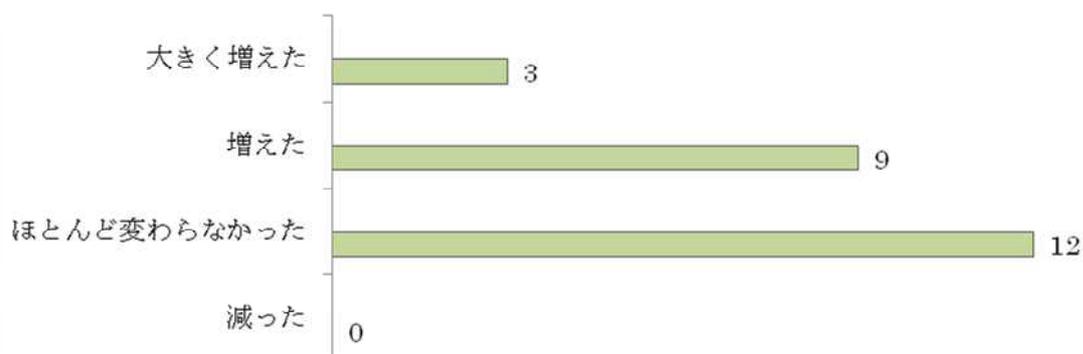
- ・ 森林に関わる人の中では知られていたと思う。
- ・ 新聞紙面等でちよくちよく取り上げられていた。
- ・ 公共施設でポスターを見る機会があった。

ほとんど知られていなかったと思う理由として、

- ・ 周りの人に聞いても知らない人が多い。宣伝・広報の方法に工夫が必要ではないか。
- ・ TVや新聞などで目にすることがほとんど無かったと思う。
- ・ 地方公共団体等での取組が見られなかった気がする。
- ・ 東日本大震災の衝撃の大きさにかき消されてしまった面がある。

などがありました。

問10 あなたは5年前と比べて、森と関わる機会が増えましたか。



その他意見・要望

問11 その他、「国有林」や「国有林の管理経営」などについてご意見ご要望や質問事項等がありましたらお聞かせください。

- ・ 国有林等森林が水資源として重要。国土保全の上でも管理はしっかり行ってほしい。
- ・ コストありきではなく、全ての生物の種の保全のために人間としてできることを計画してほしい。
- ・ 地味な仕事だが、積極的に林野庁の仕事の必要性を国民にアピールすべき。
- ・ 林野の経営については、民間の経験・知恵を全面的に導入すべき。
- ・ 赤字が増え続けているかもしれないが、林野庁のみでなく民間も巻き込み、どのような方法が良いのか、広くオープンに話せる場を作ってほしい。
- ・ いくら林野庁が治山を進めても、公共工事を次々に行う国交省との折衝及び意見集約がなければ意味をなさない。
- ・ 林業は戦後、荒廃の一途をたどり、もともと生産性の高くない上に独立採算制と経常費の圧縮の下、知恵・技術を無視した林野行政が行われてきたと思う。
- ・ 木材自給率を50%に引き上げるには、「地産地消」体制を早急に整備し、高品質で均質性の高い木材製品の供給体制の確立を図ることが肝要。

- ・ 野生鳥獣による農作物や森林の被害が著しく、保護するだけでなく被害実態を踏まえた駆除も必要。
- ・ 文書が役所的でもう少しわかりやすい表現にしてほしい。
- ・ 国有林のみでなく、隣接する民有林も国土保全のために管理してほしい。
- ・ 国土保全の取り組みには、民間やボランティアも活用すべき。
- ・ 木材チップによる発電を電力会社を買取らせる制度により、木材需要が高まり、必要以上の間伐、皆伐が行われ山が荒れる恐れがある。

まとめ

今回のアンケートでは、国有林の治山事業の取組、国有林モニターのこと、国際森林年に対して幅広いご意見をいただきました。

森林資源の有効活用のため治山施設等へも木材を積極的に利用すべきとの意見が多くありました。

また、「国際森林年」の取組については、ほとんど一般に知られていなかったとの回答が多く、宣伝・広報等今後の課題が明らかとなりました。

さらに、昨年は東日本大震災や紀伊半島を中心とした台風災害で数多くの方々が被災され、国土保全に対する関心や、外国資本による森林買収に対する関心が高く、モニターの皆様からも、国有林は、国土の保全対策や水資源の安定的な確保を重点的に取組んでほしいとの意見・要望を多くいただきました。

中部森林管理局では、引き続き中部森林管理局の取組等に理解を深めていただけるよう努めるとともに、今後も皆様からの意見・要望の把握に努め、皆様の貴重なご意見を参考にしながら、地域のニーズを踏まえた業務を進めて参ります。